

◆ 密度は高く、収穫は長くー中空構造栽培槽で実現する「勝てる」イチゴ (2011～2013年度)

共同研究機関：大阪府環境農林水産総合研究所(中核機関)、奈良県農業総合センター、(国)鳥取大学農学部、
(独)農業・食品産業技術総合研究機構(近畿中国四国農業研究センター(四国研究センター)、
大日本プラスチック株式会社、奈良県農業総合センター普及技術課、株式会社ヴェイル

研究概要：イチゴを早期(近畿地方では10月)収穫するためには夏期の高温回避技術が不可欠である。この研究においては、既に開発した、植物体の根域および地上部近傍だけを効果的に冷却したり、培地温度上昇を抑制する中空の培地構造の栽培槽を用いた実用規模での栽培を可能にする技術開発を行うとともに普及機関の協力のもとに現場での実証試験を行い、技術の普及をめざすものである。



課題提案者の感想： 産学官連携コーディネーターの支援に対して



大阪府環境農林水産総合
研究所 食の安全研究部
防除土壌グループ
内山 知二

本課題は、大阪府で基本技術を作ったものの出口が見つからず、初年目は栽培品目や担当者がブロードになっていたように思います。その後、近畿アグリハイテクの共同研究推進会議において、内容について精査していただき、研究分担を明確にすると同時に実現性をアピールする、といった応募要領にマッチした提案書作成にとって貴重なご意見をいただきました。府県単独では全国的な施策の流れや評価の重点が掴みきれず、農政局や農研機構と連携したこうしたコーディネーション組織の存在は、事業採択への大きな力添えになったと考えています。